



PROFILE 日下部辰男さん (72)

みよしまつり副実行委員長、三芳町区長会長、北永井第3区区長を務める。地域を愛する気持ちは強く「北永井第3区集会所前の沿道にあじさいの花を並べ、地域を華やかにして、防犯に繋げたい」と話す。

発見！ 初代みらいくん

「みよし生誕100周年」の時に初登場した「みらいくん」。ゆるきゃらブームのずっと前から三芳町には、着ぐるみがあつたんです。今は黄色ですが、当時は青とピンクでした。



花火だけじゃない！みよしまつりのココに注目！



【模擬店】

役場前グラウンドに飲食やゲームを出店している模擬店は「三芳町内の企業や団体」限定。地区会を出店しているところもあり、住民が主体となり、地域で祭りを盛り上げています。



【催し物】

お囃子・ロックソーラン節・鳴子踊り・組太鼓・御輿練り歩き・阿波踊り・輪踊りなどが行われ、会場全体を盛り上げてくれます。また、ばふおーまんす広場では、ダンスなどが披露されます。



【ゴミ拾いタイム】

少しでも量を減らすため、花火が打ちあがる前、来場者全員が参加しゴミを片付ける「ゴミ拾いタイム」を5分間設けます。また、まつり翌日はボランティアが一日かけて会場清掃を行っています。



みよしまつりは住民主体の「みよしまつり実行委員会」で運営。47人が実行委員として9月の開催に向けて準備をしています。運営資金となる花火等協賛金・募金箱によって町の補助金を越える7,210,706円が昨年集まりました。

「伝統芸能や踊り、ばふおーまんす広場、中学生の吹奏楽演奏など花火以外のイベントも盛りだくさんです。夏の締めくくりに一人でも多くの来場者が来ることをご心待ちにしています。」

「伝統芸能や踊り、ばふおーまんす広場、中学生の吹奏楽演奏など花火以外のイベントも盛りだくさんです。夏の締めくくりに一人でも多くの来場者が来ることをご心待ちにしています。」

「みよしまつりは夏の終わりの風物詩。みよしまつりが終わり、初めて夏が終わると感じる人が多いようです。9月開催なので、町外からの参加者が多いのも特徴。来場しない人も、自宅のベランダなどで花火を観て楽しんでいきます。そうした人

芳町の人口約3万8千人を上回る4万6千人が来場した昨年のみよしまつり。年々来場者が増え、三芳町の代名詞ともなっているこの祭りを主催・運営する、みよしまつり実行副委員長の日下部辰男さんに話を伺いました。

人口を超える人が来場する「みよしまつり」

想いが集まる故郷のまつり。

今年で26回目となる「みよしまつり」。夏の終わりの風物詩として、老若男女が集まる三芳町最大の祭りについて実行副委員長を務める日下部辰男さんにお話しを伺いました。

「子どもたちに故郷の思い出を残してほしい。町の活性化、地域のコミュニケーションの場となってほしい。模擬店



↑三芳町で生まれ育ったモーニング娘。OG、三芳町広報大使の吉澤ひとみさん。「みよしまつり」が三芳町での一番の思い出と言います。



今年の上富と藤久保のお囃子会が参加し、会場を盛り上げる。獅子舞が子どもたちの幸せを願い頭をかじる。中には大泣きする子の姿も。

PROFILE

柿崎明美さん

みよしまつりの司会進行を長年務める。声の広報みよしを作成している「三芳町朗読ボランティアの会(けやき)」にも所属。温かく優しい声の特徴。

たかがMCされどMC。伝える大切さ。

一言でMC(司会)と言っても、何か発生した時に冷静にきちんとアナウンスしなければなりません。4万を超える来場者の命を左右するものですから、プロ意識を持ってマイクを握っています。学生時代の放送研究会での経験と朗読ボランティアの経験が活かされているんです。何より「伝えること」が大好き。会場を和ませたり、盛り上げたりできる、まつりの舵取りをできるところにやりがいを感じます。印象的だったのは2011年の震災のあった年。来場者全員で黙とうをした時の静寂が忘れられません。

1889年に入間郡上富村、藤久保村、竹間沢村、北永井村の4村が合併し「三芳村」が誕生。1970年には町政施行により現在の「三芳町」が誕生しました。

そして1989年、三芳誕生100周年を記念して開催されたのが「みよし100年まつり」で、翌1990年は「町政施行20周年記念まつり」開催。1991年にはじめて「みよしまつり」の名で祭りが開催され、今年で26回目となります。

第1回みよしまつりの来場者数は約1万人で昨年の来場者は4万6千人。約30年かけて三芳町住民だけではなく、町外の人三芳町に来るきっかけとなり、町の誇りと言える、なくてはならない祭りとなりました。

みよしまつりの歴史

